

ハイド・パーク・バラックス博物館訪問および シドニー都市視察

宝仙学園中学校 教頭 中野 望

1 はじめに

私立学校教員海外研修団は、2024年9月7日、シドニーにてハイド・パーク・バラックス博物館およびシドニー市内視察した。

シドニー市内は空港から約10kmの距離にあり、通常は車で30分程度かかる立地である。ただし、平日の夕方は渋滞が発生し、40分以上かかることもある。空港と市内は非常に近く、メトロなどの公共交通機関を使うことで、短時間での移動が可能である。シドニーの人口は約600万人で、増加傾向にあり、全人口の30%が海外生まれという多民族国家である。シドニー湾は世界三大美港の一つとして知られており、歴史と近代が融合した魅力的な都市である。

今回の視察では、シドニーへの研修旅行等で生徒の引率をイメージしながら各地を訪問した。特に、ハイド・パーク・バラックス博物館は日本語の音声ガイドが導入されたばかりで、最新のICT技術を活用した興味深い展示が行われていた。

2 ハイド・パーク・バラックス博物館の概要

ハイド・パーク・バラックス博物館は、シドニーのセント・メアリー大聖堂の北側に位置しており、囚人遺跡群の一部として、2010年にユネスコの登録を受けている。入り口で配布されるイヤホンには、iPhoneのような端末と連携しており、館内の特定の場所に行くとも自動的に音声ガイドが再生される仕様である。各部屋に5つ程度の解説があり、内容は実際の物語の中に入っているかのような演出で、非常に充実した内容となっている。



ハイド・パーク・バラックス博物館

館内では、まずオーストラリアが流刑地であった歴史が紹介される。音声ガイドは3Dサウンドを使用しており、まるでその場にいるかのような臨場感を体験できる。特に印象深かった部屋は、3階のハンモックの部屋である。ここはかつて囚人たちの居住スペースで、多くの囚人を収容するため



ハンモック部屋の展示フロア

にハンモックが使用されている。展示では、70 台のハンモックが展示されており、その下にも 70 人が寝ていた可能性がある」と解説されており、劣悪な環境が想像できる。イヤホンからは縄のきしむ音やハエの飛ぶ音が聞こえ、非常にリアルな体験ができる。夜になるとネズミが大量に現れ、囚人たちの服の中に入り込み、体をかじったと伝えられている。



西洋式の宿舎のジオラマ

他の部屋には、ハイド・パーク・バラックスで発掘された工具やパイプ、囚人服（1年に2着支給されていた）などが展示されている。2階には、先住民に対して移民が土地を奪い取る様子を描いたジオラマが展示されており、非常に印象的であった。特に、先住民の文化を消し去るために、子供たちを親元から引き離し、宿舎で西洋式の教育を受けさせたという歴史は、文化的な破壊の痛ましさを感じさせられた。1階には、1846年以降に単身女性のための「移民宿泊施設」として使われていた時代の展示もあり、日常利用する裁縫道具やベッド当時の洋服等、様々な展示を見ることができる。



単身女性のための移民宿泊施設展示

ガイドによれば、この博物館を研修旅行で訪問する際は、学年全体やクラス単位での利用はあまり現実的ではないとのこと。ヘッドセットの台数は60台のため、小グループでの利用が推奨され、市内研修の一環として訪れるのが良いと思われる。5名以上の訪問時には事前予約が必要である。リニューアルされたばかりのこの博物館は、歴史をリアルに感じられる素晴らしい場所であった。

3 シドニー市内視察

今回視察で訪れた場所は、ミセス・マッコリーズ・ポイント・オペラハウス、シドニーセント・メアリー大聖堂、そして歴史的な街並みが美しいロックス地区である。これらの場所は、シドニーの多様な側面を感じさせる魅力的な観光スポットである。シドニーセント・メアリー大聖堂では、結婚式が行われており、我々も大聖堂の中でその様子を見ることができたのは貴重な体験であった。初日から武藤団長のもと高いチーム力持っていたのだが、5日目となり、シドニーの各所をめぐる中、さらにチーム力が増す仲の良さが写真より感じていただけたと思う。



セント・メアリー大聖堂で集合写真

市内の移動手段としては、メトロ、バス、ケーブルカー、フェリーなどがあり、いずれも非常に便利である。乗車方法はクレジットカードやオパールカードを乗車前と乗車後にタッチをする仕組みで非常にわかりやすい。クレジットカードで乗車できる点は、現地で特別な交通カードを購入する必要がなく助かる。また、週末には8.90ドルで公共交通機関が乗り放題になるため、研修旅行を企画する際は、この制度を活用し、週末に設定することがお勧めである。



公共交通機関の乗降の際にタッチでOK!

シドニーは安全で、多様な人種が共存する活気ある都市である。歴史的な建物と近代的なビルが調和する街並みが、さらにその魅力を引き立てている。生徒たちにとっても、この街の歴史と現代が共存する風景は、非常に学びの多い体験になると考える。

4 おわりに

今回の視察旅行では、私の担当が博物館であったため、中高生の研修旅行を想定してシドニーの街を視察した。シドニーは、多文化が共存する国際的な都市であり、歴史的な背景と近代的な発展が融合している点が非常に魅力的で、視察の中で特に感じたのは、安全面が非常に整備されていることと、食事の選択肢が豊富であること。これに加えて、教育目的での研修に適した場所が数多く存在しており、研修旅行の目的地として非常に適していると感じた。シドニーは、教育旅行先として、中高生に多様な学びの機会を提供できる街として、強くお勧めしたい。

このシドニーの多彩な魅力を、ぜひ多くの日本の教育関係者や児童生徒にも体験してもらいたいと思う。実際に現地を訪れることで、教室では学びきれない貴重な経験や発見があり、シドニーを訪問することで、日本の良さを再確認する機会にもなると考える。異文化に触れ、その違いを理解することで、より広い視点を持ち、自国の文化や歴史に対する理解を深めることができる。海外研修は、単なる異国の体験だけでなく、自己理解や国際感覚を養う貴重なチャンスでもあり、こうした機会を通じて生徒たちが成長することを期待したい。